

趣 意 書

人口の高齢化に伴い就業者の平均年齢が高くなり、定期健康診断の有所見率は5割を超え、生活全般を捉えた保健指導の重要性が増してきております。また、職場のストレス対策や「治療と職業生活の両立」など、職場の状況を十分に把握しながら、働く人々の健康を支援する活動ならびに生産性の向上を目指した経営者への支援も欠くべからざるものとなってきております。

労働者の身近で健康をサポートする産業看護職は、それらの活動を担う専門職であり、良好な実践を行っている看護職も多くおります。しかし、その実践活動の基盤となる産業看護学が学問的に体系化され、高度な実践能力と実践方法が開発されているかといえ、まだなお未熟と言わざるを得ない状況です。

日本産業看護学会は、産業看護学の発展と、産業看護活動を支える学術団体であり、産業看護学の学問体系を確立すること、高度の実践能力・実践方法を開発すること、そして看護基礎教育における体系的な産業看護教育を行うことを目的として、平成24年12月に設立されました。その目的を果たすために様々な活動を行っておりますが、その主な事業として、年1回の学術集会を開催しております。ここには、実践者、教育研究者など、多くの産業看護職が集い、研究発表を中心とした学び合いを行っております。

平成29年11月4日・5日に東京で開催を予定している第6回学術集会は、「産業看護活動の見える化～働く人の活躍を支える看護の評価と発信～」をテーマといたしました。健康診断結果の改善などの健康状況の改善についての評価のみならず、生産性の向上につながる快適職場の評価など、労働者及び経営者の両者を「健康」の側面から支える産業看護活動を評価すること、また、様々な立場で産業保健に関わる看護職も増えてきており、産業看護活動を多くの人々に伝える発信力をつけることも大切になってきていることから、これらを共に考えていきたいと思っております。

つきましては、日本産業看護学会第6回学術集会に対し、ご支援、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

日本産業看護学会 第6回学術集会長 佐々木美奈子